

岸裕司（こども環境学会理事・秋津コミュニティ顧問・学校と地域の融合教育研究会副会長）の報告。

※今回は、融合研の会員仲間がいる被災地を中心に行脚しました。2011.4/15(金)-19(火)までの岸裕司(ユークン)・秋津コミュニティ仲間の関嘉民(よしたみ、たみちゃん)さんと岸の次男の潜展(せんた、27歳)3人トリオの東北被災地支援行脚

写真は、子ども支援のレシピをいっぱい積んだワゴン車。



は〜い、ユークンで〜す！2011.4/20

関嘉民(よしたみ、たみちゃん)さんと次男の潜展(せんた、27歳)との「冬芽合唱団の3人トリオ」が4.15から4.19まで、東日本大震災の被災地沿岸部を中心に東北行脚してきました。

東北道をクルマで6時間かけてまずは仙台入りしたのですが、途中の福島までは桜の花芽が大合唱。

でも宮城県に入るとまだ冬芽でした。



で、レーテルさんの愛称の野澤令照学校と地域の融合教育研究会（融合研）副会長さんがこの4月から校長に着任した仙台市立寺岡小学校に午後4時頃に到着。

で、3月末まで市教育委員会の教育次長として仙台市内の全被災学校の状況把握や対策を陣頭指揮していたレーテルさんから市内の被災の状況をつぶさにお聞きし、これからの行脚に身が引き締まる思いがしました。

でも、ぼくたちトリオは、子どもたちや教職員と被災の人々を励ますために来たんだからと気を取り直し、放課後なので子どもたちは帰宅していましたが、さっそく教職員さんに紙芝居をしました。



その写真を添付します。

出しものは、前日にたみちゃんのつれあいの知磨子さん（融合研マークの制作者、秋津コミュニティの劇団蚊帳の海一座の座長）が今回の大地震と福島原発にヒントを得て創作完成したての『黄金キャット』です。

みなさん、けらけらと笑い、大受けでした。

で、夜は3.11から5週間も駆けずり回った融合研仙台組の慰労と「情報交換会」を名目にした「アレの会」。

で、その席でもたみちゃんが紙芝居をしました。



その演目は、たみちゃん創作の『夜の動物園』。

これまた大評判、大受け！

その評判は、帰京日の 4.18 に市内 4 か所で演じさせて
いただいたことにあらわれました、とさ。

で、集合写真と仙台駅に掲げられた「がんばろう東北！」の看板写真も添付します。

で、クルマで泊の予定でいたトリオは、レーテルさんと融合研姉妹の 5 女である野澤桂子さん宅に宿泊させていただきました。

ということで、第一回報告です。

では、アディオス！ アミーゴ！

は〜い、ユーくん〜す。2011.4/20-2

たみちゃん、せんたとの東北行脚 2 は、岩手県の藤尾智子（ともちゃん）さん在住で手配をしていただいた紫波町編です。

仙台のレーテルさん宅に泊めていただき、翌日 4 月 16 日（土）朝発ち、東北道を北上して昼ごろに紫波町入り。

で、子どもと高齢者の居場所である NPO ぬくもりで、地域の人の手づくりの美味しいお弁当をいただきました。

仙台もそうですが、紫波町でもなんだか私たち 3 人トリオがご支援をいただく感じ。

ま、いいか！ 甘えちゃえ！

で、ここから本番。

・津波で壊滅状態で町長さんも津波でお亡くなりになったあの岩手県大槌町の吉里吉里地区（井上ひさしの小説のモデルの地区）からの被災の人々がいらっしやる志和公民館（紫波町にある志和です）で、紙芝居と本のプレゼント開始。

・紫波町と吉里吉里地区とは、26 年間も子どもの交流（互いの民家に泊まり合う）をしているそうで、そのご縁からだそうです。

・学校のことがあるので小学生の家族はすでに親戚などを頼りに他の地へ移り、中学生と高校生と、ほとんどは高齢者でした。

・紙芝居も本も、とても喜んでいただきました。

写真を 2 枚添付します。助手役がせんたです。独身です（関係ないか）。



<エピソード>

たみちゃんが、50年前の街頭紙芝居で実際に使われた『ガンマ王子』を1から続けて3まで演じ、「この続きは本当は57作まであるのですが、私は3までしかないので」と言うと、聞いていた中のおばあちゃんが「じゃあ津波に流されたんだ！」と大きな声で言いました。

私は一瞬「ドキ！」としたのですが、まわりのおばあちゃんたちが大笑いしたのです。

その様子にたみちゃんも床にずっ転げたらまたまた大笑い。

ともちゃんやお世話をするボランティアさんの話では、1週間目は出たものを食べるだけで2週間目はおかわりをするようになり、3週間目は少し残すようになり、4週間目でやっと冗談がでるようになったそうです。

で、今の5週間目には、紫波町の人に誘われて「じゃがいもの種付け作業」をするように変わってきたそうです。

でも、この先1年もここにいることになるかもしれません。

長期の支援が必要なことを痛感しました。

2か所目は、

- ・学童保育所のひとつである「なかよし広場」です。
- ・20人ほどの小学生に紙芝居と本をプレゼント。
- ・都市部の学童保育所では考えられないほどの部屋数と全体が広いスペースの学童保育所でした。
- ・紙芝居の写真を添付します。

で、夜は、昼食をいただいたNPOぬくもりの理事長である小田中次男さんのご配慮で、紫波町のお店でまたまた「アレの会」。



で、「岩手県の地酒を飲むのも支援だ！」とヘンな理屈をつけて紫波町の地酒を頼んで「堀の井」をガンガン！

あっ、仙台でももちろん宮城県産の地酒をいただきましたよ。

で、この日もクルマで泊まる予定でいたのに、ともちゃんの手配で造園業を営む瀬川勲さんのお宅に泊めていただきました。

ともちゃんの話では、「ボランティアを支援することも支援なのよ」とのこと。

なあるほど、と納得して甘えさせていただきました。

ちなみにおつれあいさんは、わが融合研の長女である宮崎雅子事務局長と同じお名前の「ま



さこ」さんでした。ご縁でしょうか。

てなことで、2日目でした。

あっ、お風呂は被災者の人々もお入りになる紫波町営温泉の「ラ・フランス」でやんした。融合研の酒局部長で私のワイフの車育子（ちゃ ゆっちゃ、通称チャンちゃん）さんに「なにを優雅にやってんのよ！」と帰京したら怒られそう。

では、アディオス！ アミーゴ！

は〜い、ユーくんで〜す。2011.4/21

たみちゃん、せんたとの東北行脚 3 は、ともちゃんが手配してくれた融合研会員で元教育委員長の平井二三子さんがお住まいの沿岸部の被災地の宮古市編です。



周囲が倒壊した市役所の写真を添付します。

宮古市では、平井二三子さんのご配慮で、融合研会員でもある宮古市長の山本正徳さんには、宮崎稔融合研会長からの伝言を伝え、融合研としても

何らかで長期間ご支援させていただきたいとの意向をお伝えしました。

また、市長は坂下昭弘教育委員長をご紹介くださり、融合研と教育委員会ルートでの幼稚園児（都市部）から小中学生（高校生は県教育委員会か）へと教職員への支援の糸口をつかみました。

同時に市長部局の保健福祉部福祉課子育て支援室主査の山崎進様もご紹介いただき、教育委員会ルートでは把握しきれない保育所や避難所で生活する乳幼児や親への支援の糸口もつかむことができました。

つまり、融合研らしい支援のあり方は、大きく分けて2つのルートと思います。

A：義務教育学校を把握していて教職員とつながる市区町村教育委員会ルート

B：首長部局が担当の保育所などの福祉部局ルート

ということになろうかと考えました。

Aルートでは、月～金の開校時間帯での授業時間中の学社融合的な支援

例えば紙芝居を国語や特活の授業として実施していただく、融合研の会員の学校支援地域本部事業の出前など。

Bルートでは、放課後や休校日の土日、夏休みなどの長期休暇の時間帯など。

例えば昼の保育所、放課後や休校日の児童や生徒には放課後子ども教室の出前、児童館（仙台市は子供未来局担当）には冒険遊び場協会の実践など。



が実施可能ではないかと考えました。

2枚の写真は、宮古市田老地区の被災者が避難して生活されておられる避難所での紙芝居と本のプレゼントの様子です。

なお、週末にこども環境学会で添付の「子どもたちに支援を！緊急集会」を開催します。

私も今回の状況を話すと同時になんらかの提携を模索したいと思います。



あっ、今（22：45）東京でも地震がありました。余震で東北のみなさんの大変さを感じています。

では、つながろう！ アディオス！ アミーゴ！

ユークんの岸裕司@秋津コミュニティ顧問&学校と地域の融合教育研究会副会長&こども環境学会評議員（4月に理事を降りました）です。11.4/24 東北行脚の番外編です。

融合研のみなさん、仙台市と紫波町を拠点に3人トリオの行脚からのネットワークづくりの現時点の考えをお知らせさせていただきます。

今回私は、2つの行政別ルートによる支援ネットワークづくりを意識してお伺いさせていただきました。

○Aルート：学校+教育委員会系

○Bルート：首長部局の福祉部局系

この2つのネットであれば、幼稚園から小中高校・公民館のAルートと、Bルートが所轄する無認可も含む保育所・学童保育所・児童館・子育てサークル・避難所・民家への避難者・被災地在住など、基本的にはすべての子どもが把握できると考えました。

また2つのルートでの時間帯を考慮した活動内容は、このように考えました。

○Aルート：月～金曜日の開校時間帯（年間約200日）での学社融合。

例えば、仙台市立西山小学校で実施させていただいた紙芝居などを国語や特活の授業としてや、学校支援地域本部事業の出前など。

○Bルート：放課後や休校日の土日・夏休みなどの長期休暇（年間約165日）での活動。

例えば、保育所での母子やおやじ支援、放課後子ども教室の出前、学童保育所や児童館・公民館などでの冒険遊び場づくりや遊び道具と遊び支援者が同乗するプレイバスの巡回などです。

で、今回以下のことを学ばせていただきました。

「まずは現地へ」。「土足で踏み込まない」。ある避難所には「ボランティアの受け入れは現在しておりません」と書かれた張り紙がありましたので。

『瓦礫』のことばは禁句。まだ行方不明の人々や思い出が埋まっていることからの配慮を。「個人的な信頼関係者と関わる」「そこを拠点にネットを築く」「長く関わる」。

そして、秋津の学社融合からうまれた重要なキーワードである「できる人が、できるときに、無理なく、楽しく！」冷静に支援させていただく姿勢です。

なお、昨日子ども環境学会主催の「子どもたちに支援を！緊急集会～東日本大震災で子ども環境学会がやるべきこと～」を開催し、添付の案がほぼ採択されました。

この学会とも提携しながら、長く関わっていこうと決意しています。

最後に秋津コミュニティのことで恐縮ですが、4月28日(木)20:00～20:30まで、NHK教育テレビで紹介されます。再放送日時も含めた紹介を添付します。

ご関心と視聴可能な方はご覧いただきたくお願いします。

また、ワイフの車育子(ちゃ ゆっちゃん)さんと明日から震災前から予定していた娘夫婦が住む沖縄県石垣島に28日夜まで行きますので、この間はメールを読みませんのでよろしくをお願いします。

また、行脚の続きはしばらくお休みさせていただきます。

写真は、仙台の大友重明さん(仙台市泉区中央市民センター事業企画係主査兼社会教育主事で教員)にご案内いただいた榴岡(つづじがおか)児童館での紙芝居の様子です。

子供の中には津波に遭遇した子もいました。

では、感謝の気持ちをいっぱいこめて、アディオス！アミーゴ！

仙台や紫波町、宮古のみなさん、近いうちの再会まで、お元気で！

は～い、ユーくんです。2011.4/29

たみちゃん、せんたとの東北行脚4は、紫波町から出かけた陸前高田市編です。

陸前の報告の前に、昨夜、チャンちゃんと石垣島から帰りました。

石垣島でも船で行った西表島でも東日本大震災の応援がそこかしこにありました。

で、西表焼きの窯元での支援は、全額震災に募金するとのシーサーだったので、思わず買いました。

添付がそれです。だれかさんに似ていると思うのですが。



さて、陸前高田へは、ともちゃんの紫波組みの赤石公民館の支援隊が支援物資をお届けするとのことから同行させていただきました。



その写真を添付します。

たみちゃんとせんたくんも後ろに写っています。陸前高田市は、沿岸の手前 3 キロメートルくらいから津波の被害甚大で、元の様子がまったくわかりませんでした。

でも、市立小友小学校と米崎小学校の避難所に物資をお届けしました。

米崎小学校ではりんごクラブ（学童保育所）が開設されていたので、そこで紙芝居と絵本のプ

レゼントをしました。紙芝居の様子が写真です。

また、高台にあったために無事だった米崎保育園を訪ね、絵本をプレゼントしました。

保育師さんからは、「これまではミルクや紙おむつなどの物資でしたが、これからは心のケアが必要なので、絵本のプレゼントは助かります」と言われてうれしかったです。

その保育園には鯉のぼりがはためいていて、なんだかホッとしました。

その写真も添付します。



その後は、沿岸沿いに南下し、気仙沼市、南三陸町、松島湾、塩釜市から仙台市の沿岸被災地を視察して、再び野澤レーテルさんと桂子さんのお宅に泊めていただきました。

その沿岸部の惨状は、前日の宮古市、山田町、大槌町、釜石市とともに凄まじかったです。

どこもそうですが、長期の支援の必要性を感じました。

また、前日同行いただいた宮崎道名（若宮崎の愛称）さんの話では、「テレビで放送されない小さな集落が物資も届かず大変なんだよね」とのことから、広範囲に支援が必要なことも実感しました。

私が思うには、こども環境学会などとも提携し、仙台市や宮古市に拠点を置き、可能な会員が入れ換わり伺い支援することが良いと思いました。

方法を模索したいと思いますので、ご意見をお願いします。

ではね、アディオス！ アミーゴ！

は〜い、ユーくん〜す！ 2011.4/30 ※最終版はチト長いです。

関嘉民（よしたみ、たみちゃん）さんと次男の潜展（せんた、27 歳）くんと「冬芽合唱



団の3人トリオ」の4.15から4.19まで東北被災地子ども励まし行脚の最終日は、再度の仙台編2で最終回です。お泊めいただいた野澤さん宅では、桂子ちゃん手づくりのサトイモや野菜満載の美味しいお汁をいただき、英気をやしたトリオは、初日の仙台での「アレの会」での談合？が実り、4か所での慰問を準備していただきました。

まずは大友重明さん(仙台市泉区中央市民センター事業企画係)と、有馬玄康さんが教務主任を務める仙台市立西山小学校で落ち合うために同校に伺いました。

校舎に入ると、「ユウくん、せんちゃん、たみちゃん、ようこそ西山小へ」と書かれた看板があり、うれしさが込みあげてきました。

ご許可をいただいた宮崎吉輝校長さんは、図工の専門とすることで、同校のいたるところに校長さんや子どもたちの工作物やオブジェがいっぱいです。

○西山小学校では4年生52名(欠席2名)に1時間目の授業時間に紙芝居と本のプレゼントをさせていただきました。

この「授業時間にできること」が、我が融合研だからこそその仲間同士のつながりからでの支援のあり方と思います。

なぜならば、授業に先生が組み込めば、学社融合になるとともに放課後や休日ではないことから先生の負担感がずいぶん違うだろうと思うからです。

今後は、現地の先生が望む「励ましレシピ」の収集と、同時にレシピの組織化が必要と感じました。

ぜひ「こんなことをやってほしい」とのご希望をおよせください。

また、「こんなことをやりたい」もお願いします。

校舎入り口でのトリオの写真と音楽室での紙芝居の写真を添付します。



<エピソード>

たみちゃんが、自作の『夜の動物園』を演じ始めると、西山っ子が言いました。

「あっ、写真だ！」とね。

この作品は、実は実写を本職がデザイナーのたみちゃんが加工して制作した作品です。

のちにたみちゃんが言いました。

「いままで何度もやっているけど、こう言った子はいなかったよね」と。

「多分、宮崎吉輝校長さんが図工などの表現や創作に力を入れているからなのでしょうね」と話し合いました。

学校教育の大切さ、子どもたちへの影響力の大きさを感しました。

○宮城野区体育館被災者慰問

大きな体育館いっぱい避難者が生活しています。マイクで放送していただき、小部屋で紙芝居と本をプレゼント。

はじめた頃は子どもたちでしたが、若い親や高齢者の方々も観に来るようになりました。

今回の収穫のひとつは、「紙芝居はお年寄りの癒しにもなるんだ」ということでした。

で、今日は、忙しい！

大友さんのご案内で、次は旧知の特定非営利活動法人せんだい杜の子ども劇場代表理事の齋藤純子さんが指定管理者として運営されている2つの児童館に向かいました。



○新田（しんでん）児童館慰問

午前中で学校に児童は行っているために乳幼児とお母さんと職員さんに紙芝居。

○榴岡（つつじがおか）児童館慰問

ちょうど午後1時頃に到着し、隣の小学校が終了し、児童もたくさんやってきました。

男性の先生には、そのクラスの男の子たちが膝乗りです。

40名ほどの子どもたちと、親と職員さんに紙芝居。

<エピソード>

紙芝居が終わってもまだいる子どもたちに、せんたくくんが「高い、高～いをしたいい子」と呼びかけると、「わたしも高い高～いして!」「つぎはぼく!」と、子どもたちが次から次に抱きつきました。

「高い、高～い!」と抱き上げるだけで、どの子もふれあいに飢えているのかなあ、と感じました。

その様子の写真を添付します。



齋藤代表理事とお話しましたが、

○学校のAルートに対して、Bルートである放課後や休校日の土日・夏休みなどの長期休暇（年間約 165 日）での活動が可能な児童館での支援のあり方がわかり、うれしかったです。

で、最後の<エピソード>

「ええ～、じゃあつぎのあらすじは？」と、たみちゃんが『夜の動物園』の第一部を演じ終わり、「続きはまだできてないの。頭の中にはあるけどね」と話した直後のこと。

聞いたのは、津波に遭遇した子もまじる仙台市榴岡児童館の子どもです。

で、困ったたみちゃんは、「じゃあ、次に来るときはつくっておくね」と、つい話してしまいました。

すると、「絶対だよ！」「約束だよ！」と、子どもたちが矢つぎばやにいました。

だから、また行こうね、たみちゃん、せんたくん！

さて、行きの 4.15 は福島まで桜の冬芽が大合唱でしたが、帰りの 4.19 は、岩手県から仙台・宮城は桜が咲き誇る「春芽合唱団」になっていました。

で、仙台を後にし、一路帰京へ向かいました。

今回、みなさんに大変お世話になりました。

近いうちに再訪させていただきますので、それまで待っててね！

では、東北行脚区報告でした。

感謝、アディオス！ アミーゴ！

<今回お世話いただいた以下の方々に、特段の感謝です>

・仙台市、宮城県

仙台市教育委員会生涯学習課生涯学習係主査兼社会教育主事 門間和彦さん

仙台市教育委員会生涯学習課生涯学習係主査兼社会教育主事 石垣恵さん

仙台市教育委員会生涯学習課生涯学習係主査兼社会教育主事 蓮沼秀行さん

仙台市立寺岡小学校校長 野澤令照さんとおつれあいの野澤桂子さん

仙台市立南小泉小学校教頭 白井浩さん

仙台市教育センター主任指導主事 堤祐子さん

仙台市立西山中学校 PTA 会長 久保木潤子さん

ハリウコミュニケーションズ株式会社 代表取締役 針生英一さん

仙台市放課後子ども教室等事業 仙台市立黒松小学校代表・コーディネーター 今野久美子さん

仙台市泉区中央市民センター事業企画係主査兼社会教育主事 大友重明さん

仙台市立西山小学校教務主任 有馬玄康さん

仙台市立西山小学校校長・仙台市小学校教育研究会図画工作部会理事 宮崎吉輝さん

東北福祉大学せんだんホスピタル子どもの心のケアセンター児童精神科医師 福地成さん

特定非営利活動法人せんだい杜の子ども劇場・仙台市新田児童館副館長 大久保佳奈子さん

特定非営利活動法人せんだい杜の子ども劇場代表理事・榴岡児童館館長 齋藤純子さん

特定非営利活動法人せんだい杜の子ども劇場・榴岡児童館児童厚生員 宮崎雅行さん

・岩手県

紫波町福祉課長 藤尾智子さん

紫波町赤石公民館 岡市久美子さん

特定非営利活動法人風・波デザイン代表理事 宮崎道名さん

特定非営利活動法人風・波デザイン 丸山祐介さん

株式会社共同園芸代表取締役 瀬川勲さんとおつれあいさんのまさこさん

特定非営利活動法人ぬくもり理事長 小田中次男さん

紫波町観光ボランティアしゃ・ベール 久慈和子さんとお友達

紫波町赤石公民館館長 佐藤雄一さんとお仲間たち

宮古市市長 山本正徳さん

宮古市元教育委員長 平井二三子さん

宮古市教育委員会委員長 坂下昭弘さん

宮古市保健福祉部福祉課子育て支援室主査 山崎進さん

宮古市田老診療所の夫が医師でお連れ合いさんの黒田さん

陸前高田市立小友小学校副校長 渡邊淳さん

陸前高田市米崎保育園 長野定子さん